

国営武蔵丘陵森林公園 整備・管理運営プログラム (案)



令和3年5月

国土交通省関東地方整備局
国営昭和記念公園事務所

目 次

目 次	・ ・ ・	1
1. 全体計画及び開園状況	・ ・ ・	2
(1) 全体計画	・ ・ ・	2
(2) 供用の経緯	・ ・ ・	3
(3) 入園者数の推移	・ ・ ・	7
(4) ストック効果	・ ・ ・	8
2. 令和7年度までの整備及び管理運営の方針等	・ ・ ・	1 1
(1) 今後5年間の整備・管理運営の重点事項	・ ・ ・	1 2
(2) 整備・管理運営方針	・ ・ ・	1 3
(3) 事業効果	・ ・ ・	1 5

1. 全体計画及び開園状況

(1) 全体計画

国営武蔵丘陵森林公園（以下「本公園」という。）は、明治百年記念事業の一環として閣議決定に基づき設置された、全国で初めての国営公園です。

本公園は、自然を失いつつある都市の住民が緑を通じて人間性を回復する場を確保することを基本理念として整備され、供用開始から46年を経て、首都圏において自然を身近に感じ、親しめる場所として活用されています。

所在地	埼玉県比企郡滑川町、熊谷市
全体面積	304ha（東西約1km、南北約3.5km）
整備着手年度	昭和42年度
供用開始年度	昭和49年度
区分	口号国営公園

【位置図】



(2) 供用の経緯

1) 国営武蔵丘陵森林公園のこれまでの主な経緯

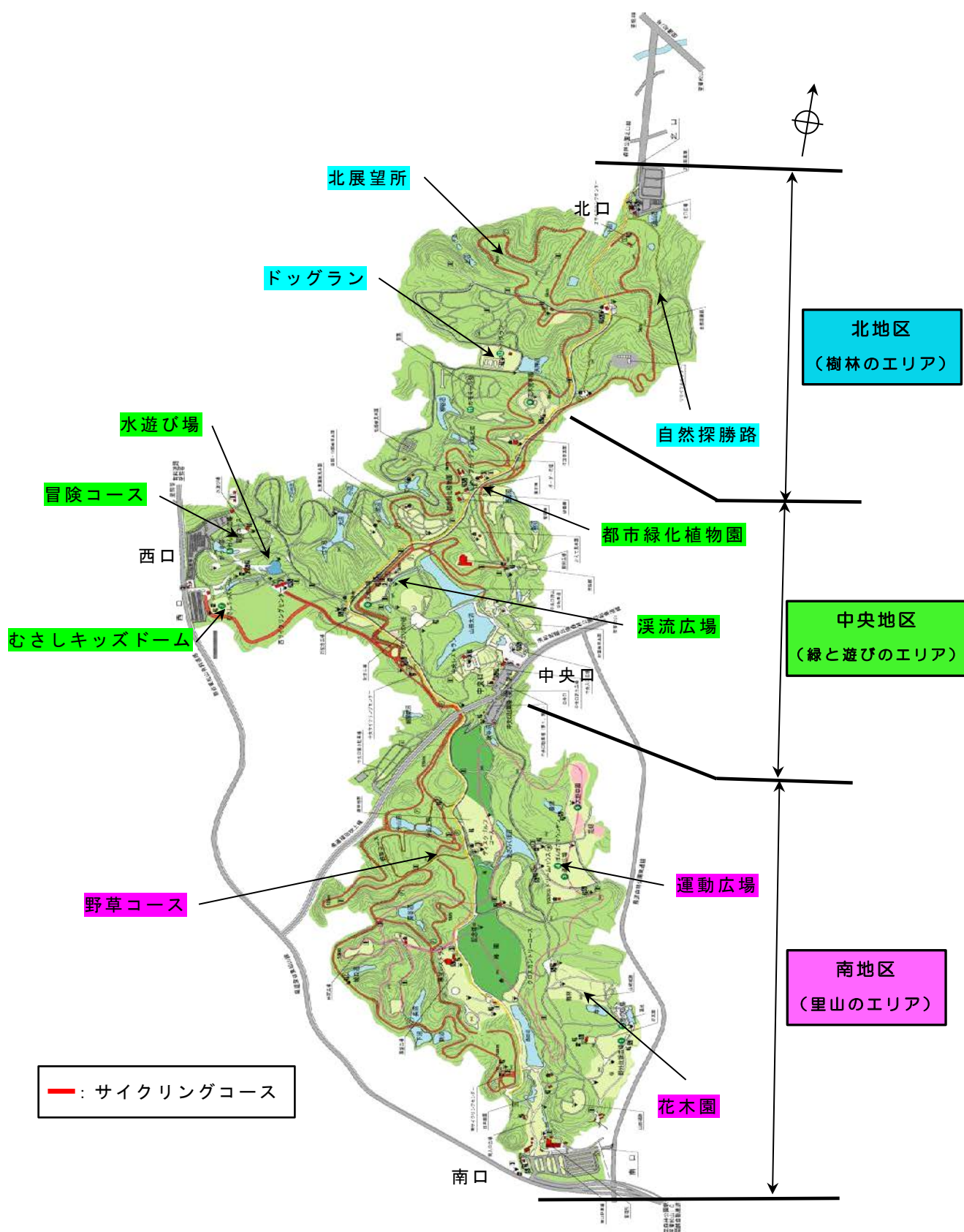
昭和 41 年 4 月	閣議決定により「明治百年記念準備会議」設置
昭和 43 年 3 月	東松山都市計画公園として計画決定及び事業決定
昭和 43 年 10 月	閣議で国営森林公園の設置が決定
昭和 44 年 2 月	事業主体を埼玉県から建設省へ変更
昭和 44 年 4 月	名称が「国営武蔵丘陵森林公園」に決定
昭和 44 年 4 月	基本計画案を一般公募
昭和 44 年 10 月	審査委員会において基本計画案入賞作品を決定
昭和 45 年 5 月	建設大臣が基本設計を決定
昭和 49 年 7 月	供用開始
昭和 55 年 3 月	整備を概成
平成 2 年 4 月	北口開園にともない森林公園北口線が開通

2) 主な供用施設

本公園は、里山環境の中で花木や野草の観賞を楽しむことができる南地区(里山のエリア)、遊具や水遊び場など子供の遊び場が充実する中央地区(緑と遊びのエリア)、人為的干渉を抑え自然の遷移に任せた樹林が広がる北地区(樹林のエリア)の3つのエリアで構成されています。

丘陵を走る全長約17kmのサイクリングコースは、3つのエリアにわたって延び、風を感じながら高低差に富んだコースを疾走することで、開園当時から変わらぬ森林公園の魅力を感じることができます。





■南地区（里山のエリア）

南地区では、サクラやウメなどの花木や四季を通じた山野草を、ゆったりと鑑賞することができます。また、本公園で最大の芝生広場である運動広場は、各種スポーツ大会に利用されるとともに、広場の一角に設置されたぽんぽこマウンテン（空気膜遊具）では子供たちが元気に飛び跳ねています。運動広場に隣接する花畑では、春から初夏にかけてのポピー、秋の羽毛ゲイトウが咲き誇り、多くの人の目を楽しませています。

●主な施設

- ・南口
- ・南口駐車場：普通車 547 台、大型車 10 台
- ・花木園：ゆるやかな斜面に、紅梅や白梅など約 500 本のウメとソメイヨシノを中心に約 400 本のサクラが植えられている。
- ・野草コース：四季を通じて様々な山野草が見られる、一周約 1km の小道。
- ・運動広場：約 6.5 h a の芝生広場。

花木園	野草コース	運動広場
		

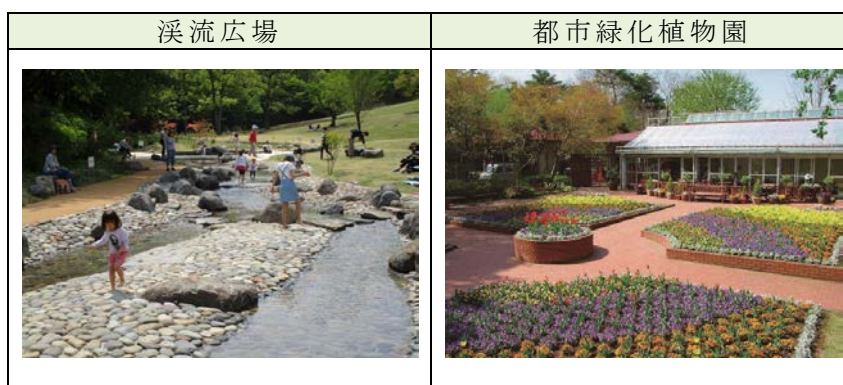
■中央地区（緑と遊びのエリア）

中央地区は、本公園最大の山田大沼を中心とし、なだらかな丘に囲まれ、むさしキッズドームや冒険コースなど子供が遊べる施設が集積するとともに、溪流広場、都市緑化植物園、ヤマユリの小径、中央レストランなどが位置し、利用者が最も多く本公園の中核となるエリアです。

●主な施設

- ・中央口、西口
- ・中央口駐車場：普通車 261 台、大型車 5 台
- ・西口駐車場：普通車 560 台、大型車 11 台
- ・むさしキッズドーム：約 50 種類のカラフルな要素からなる複合遊具。
- ・水遊び場：子供が楽しく水遊びができる水面積約 2,500 m²のじゃぶじゃぶ池。

- ・冒険コース：起伏のある雑木林の地形に 24 基の遊具が設置された、子どもから大人まで楽しめる 1 周約 1 時間のアスレチックコース。
- ・溪流広場：夏には水遊びができる、川の一生を表現した長さ約 270m の人工の流れと、芝生のスロープのある広場。
- ・都市緑化植物園：約 45ha の広さに、植物園展示棟、ハーブガーデン、ボーダー花壇、カエデ園などが設置。



■北地区（樹林のエリア）

本公園の中でも北斜面、池沼が多く平地が少ないエリアで、アカマツをはじめクヌギ、コナラ等の植生を、極力人為的な干渉を抑えつつ、自然の遷移に任せた樹林が広がっています。

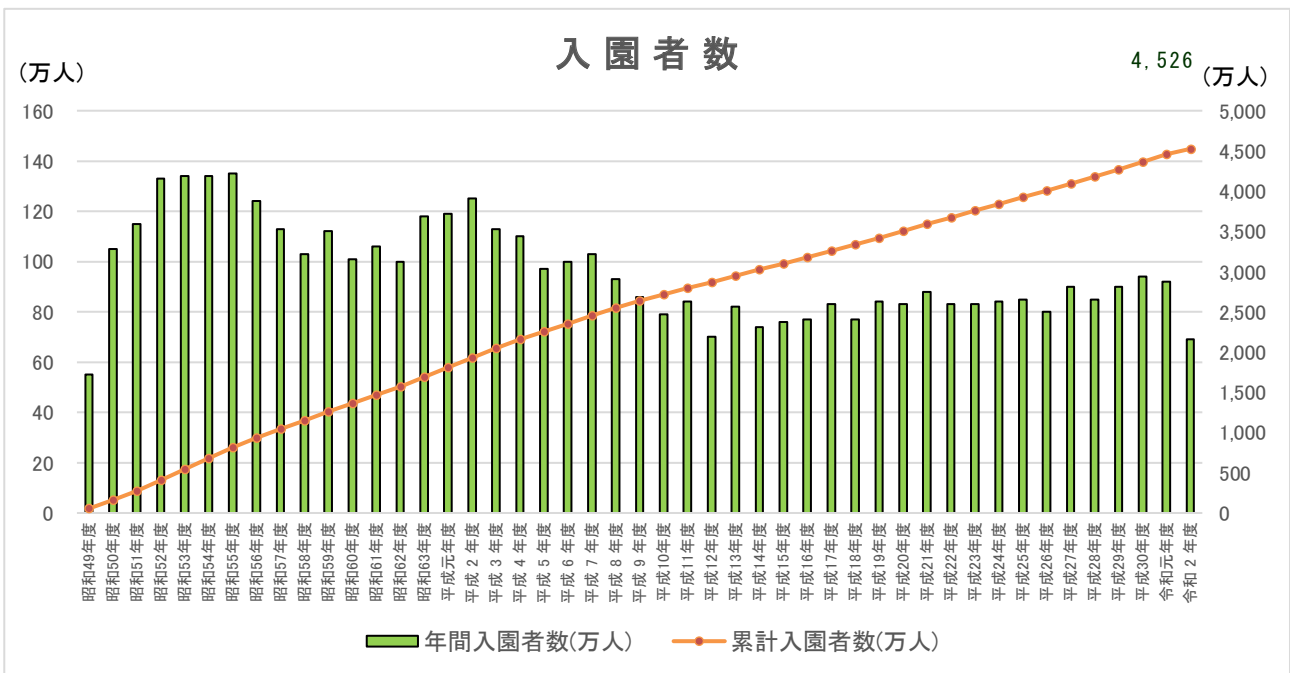
●主な施設

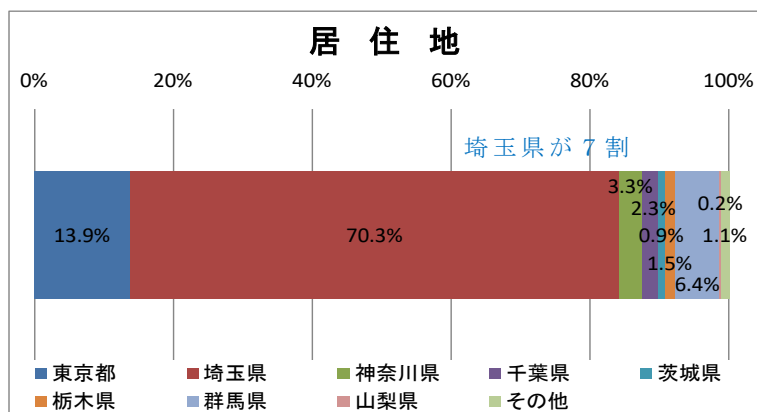
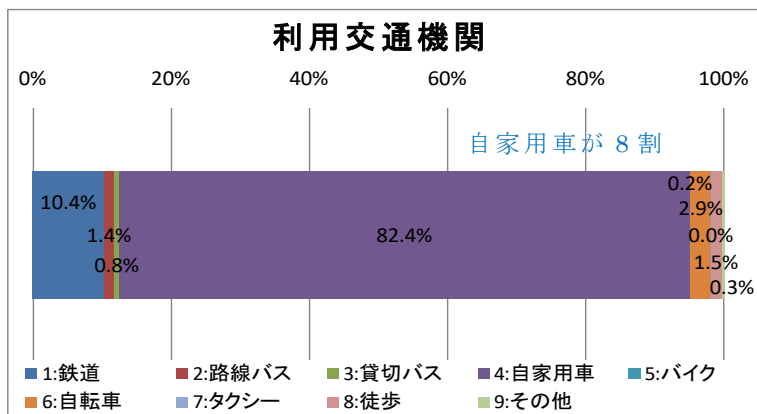
- ・北口
- ・北口駐車場：普通車 260 台、大型車 11 台
- ・自然探勝路：北口～植物園花木園～西口まで全長約 3.4 k m の小道
- ・北展望所：熊谷市内を望むことができる小高い丘。
- ・ドッグラン：約 6,000m² の広さでフリーエリアと小型犬専用エリアがある。



(3) 入園者数の推移

開園から令和元年度末までの入園者数の累計は約4,400万人であり、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休園した期間があったため、約63万人でしたが、令和元年度には約92万人の方々に利用されています。





(4) ストック効果

1) 自然環境保全効果

アカマツ林、コナラ林、湿地、ため池等から構成される里山の景観を守り、多様な自然環境を保全することにより、生物多様性の確保に貢献しています。

本公園には、園内全体で約1万株のヤマユリが自生し、ヤマユリの小径では7月中下旬に、群生して咲く貴重なヤマユリを見ることができます。ヤマユリの保全の取り組みにより、開花株数は増加傾向（5年前の1.3倍以上）にあります。

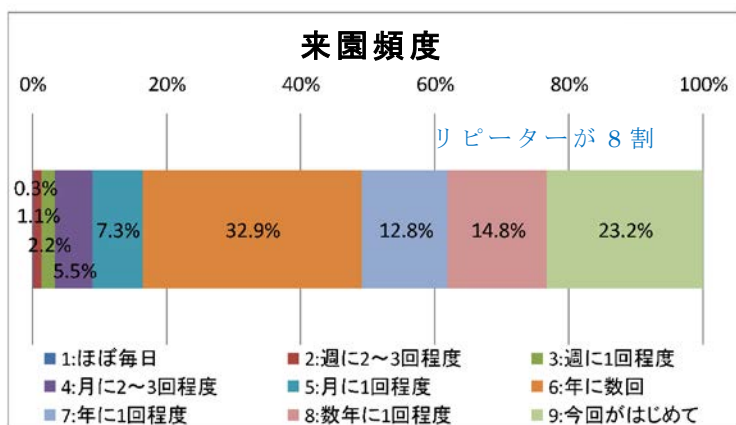
春の新緑、初夏のヤマユリ、秋の紅葉等の、本公園の自然環境が見せる四季折々の魅力により、リピーターの獲得につながっています。



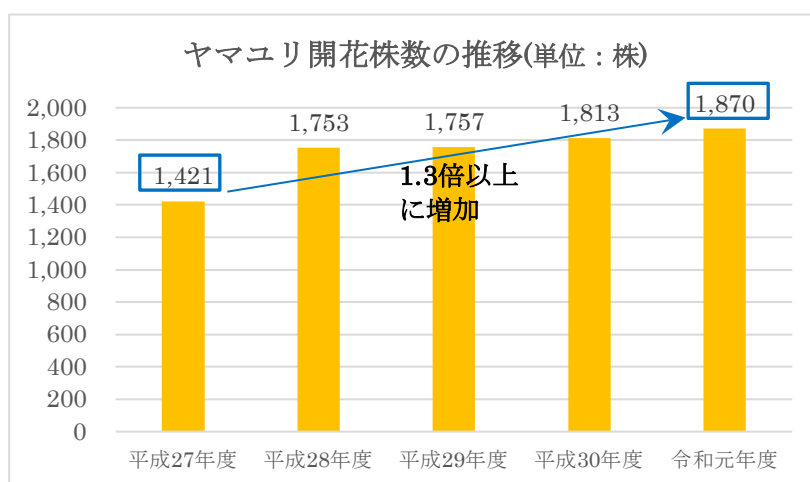
アカマツ林



ヤマユリ

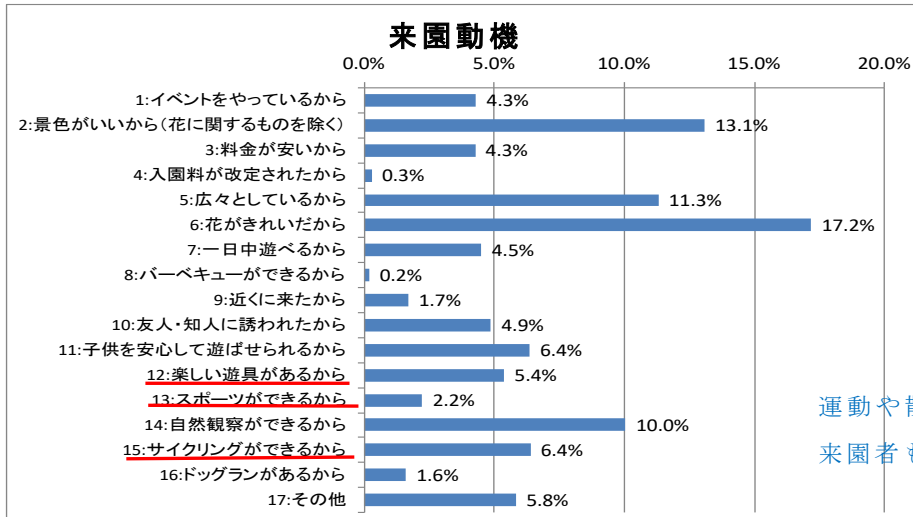


2) 健康・レクリエーション環境提供効果



健康意識の高まりから自然の中で安心して運動や散策等を楽しめる空間として多くの方に利用されています。

緑の中を駆け抜ける全長約 17km のサイクリングコースは、利用者の 6 割以上が「非常に満足」と回答する人気の施設です。



イベント「早朝ヨーガ」

3) 観光振興効果

春のポピーなどの大規模花修景を目的に来園する方も多く、また地域と連携した魅力的なイベント開催により、多くの方が来園しています。

本公園と埼玉県内の他の観光施設を巡るバスツアーの開催や近隣の宿泊施設では本公園の紅葉ライトアップがセットの宿泊プランが販売されており、観光客の誘客に貢献しています。



ルピナス



イベント「沼まつり」



もみじみ
イベント「紅葉見ナイト」

4) 防災性向上効果

大規模地震発生時等に災害対策用車両待機拠点として、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)をはじめとした救援部隊が災害時に本公園を拠点に活動します。



令和元年台風 19 号での災害出動
(TEC-FORCE 災害対策車両)

2. 令和 7 年度までの整備及び管理運営の方針等

本公園では、当初開園から 46 年が経過し、各公園施設の老朽化が非常に進み、安全・安心な公園利用への懸念が生じているほか、防災拠点としての機能を十分に発揮できない懸念があります。

また、自然環境の面では、特定外来生物であるアライグマの侵入によりトウキョウサンショウオ等の貴重な動植物が捕食され生物多様性に悪影響を及ぼしています。

このような課題を踏まえ今後5年間で下記の取組を重点的に実施します。

(1) 今後5年間の整備・管理運営の重点事項

1) 公園施設の老朽化への対応

最新の基準等に基づく園内施設の安全点検を実施し、ハザードの解消など管理を徹底して事故防止に努めるとともに、コストの縮減・平準化を考慮した園内施設の長寿命化計画に基づき、目視点検で維持管理・更新等にかかる施設の更新等を進めます。

2) 多様な子供の遊び場の提供

子どもの利用が中心となっている西口周辺において、水遊び場が老朽化のため、池部分の水漏れや循環ポンプの故障が発生しています。新型コロナウイルスに対応した新しい生活様式への対応が求められる中で、多様な子供の遊び場を提供するため、これらの改修に加え、バリアフリーを含めた再整備により魅力向上を強化します。

3) 里山の自然環境の保全・活用

里山環境を特徴付ける貴重なヤマユリや希少種のキンランなどの保全に取り組むとともに、特定外来生物であるアライグマや、水生植物やトンボ等に影響を与えるアメリカザリガニについては、園内の生態系の保全・回復のため防除対策として捕獲を実施します。

4) 自然災害に対するリスクの低減

大規模災害時にも防災拠点として活用されるよう、電気設備、園路の打ち換え等再整備等により防災機能を強化します。

5) 再生可能エネルギーの活用

太陽光発電など再生可能・未利用エネルギーを活用します。

(2) 整備・管理運営方針

前述の重点事項に加えて、以下の方針の下で、日本最初の国営公園として永く国民に愛される公園を目指して整備・管理運営を行います。

1) 首都圏近郊の里山環境の保全、継承

・人が手を入れなければ荒廃していく里山環境を維持し、貴重なヤマユリなどの保全に努めるとともに、ツバキや山野草など利用促進の観点から注目がされなかった園内資源についても積極的な情報提供を検討し、本公園の自然環境を活かした環境学習の強化や利用促進に努めます。

2) 多世代の健康づくりの場、子供の成長を育む場の確保

・新型コロナウイルスに対応した新しい生活様式を踏まえ、多様な健康づくりや遊びの場として活用されるよう、ハード・ソフト面の両面からの取組みを充実させます。

3) 公園の魅力向上や地域連携の強化を通じた広域周遊観光の促進

・中国、アメリカ、韓国等から訪れる外国人観光客へも分かりやすく快適に公園を利用できるよう、園内サイン等の情報発信の多国語化を進めます。

・公園内のキャッシュレス化による利便性の向上に取り組みます。

・公園内の見所や季節のイベント等について、ドローンを用いた動画をHPやSNSを通じて発信するなど、新しい広報、情報提供の取組みを充実していきます。

・大規模な花修景や、花木や山野草の開花期にあわせたイベントのほか、里山の環境を活かしたライトアップなど、四季折々の魅力あるイベントを開催します。

・イベント等の開催等において、滑川町をはじめとする近隣自治体や地域で活動する団体等と連携し、広域周遊観光の促進など地域の活性化に貢献します。

・引き続き、ハード面の公園内のバリアフリー化に取り組むとともに、閉鎖中の施設等の撤去・更新を進めます。

4) 防災拠点としての機能確保

・大規模地震発生時等の円滑な救援・復旧活動を支援するため、災害対策用車両待機拠点として緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）をはじめとした救援部隊が、災害時に本公園を拠点に活動できるよう引き続き老朽化した電気設備の更新等を進めます。



令和元年台風 19 号での災害出動
(TEC-FORCE 災害対策車両)

(3) 事業効果

令和7年度までに上記の施策を実施することにより、次のような事業効果を目指します。

○公園施設の計画的な維持管理・更新

・公園施設長寿命化計画にもとづき、維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減、平準化を図ります。

○健康づくりや遊びの場の提供、地域観光の促進

・四季折々の魅力あふれる空間を創出し、1年を通して子供の遊び場や多世代の健康づくりの場として、安全安心に利用されます。

・地域の観光の核の一つとして、地域と連携したイベント等を継続することにより、広域周遊観光が促進されます。

○里山の自然環境の保全

・首都圏に残る貴重な里山環境の景観や生態系が保全され、生物多様性の向上に貢献します。

・環境学習プログラムや里山の自然に親しむための自然観察会等により、自然の大切さを多くの方に伝えていきます。

○防災機能の発揮

・大規模災害時に防災拠点として活用することができるよう老朽化した電気設備を更新し災害拠点として防災機能を確実に発揮できるようにします。

なお、本プログラムは、事業の進捗状況をふまえ、適宜見直をしていくものです。